

り、味劣れり、亦小景鮒と號するものは、堅田の漁人に糸網を湖底にかけてとるものなり、亦一説、紅葉鮒と號し、秋に至て捕ものあり、此紅葉鮒は高島郡紅葉が浦にて捕所本なり、この紅葉が浦に古昔大楓樹あつて、紅葉湖水に浮べるを食せる鮒のへに、この名ありといへり、然れども何の處にても、秋日捕ところの鮒を紅葉鮒と云、蓋秋日其肉色赤し、故に稱するともいへり、近江鮒は例貢の其一にして、延喜式に載れり、いつのころよりか例貢絶たり、彦根及膳所より江戸へ獻る、
 〔令義解賦役〕凡調略○中正丁一人、絹絰八尺五寸○中若輸雜物者○中近江鮒五斗、
 〔延喜式三十一〕諸國例貢御贊 近江國中鮒

〔近世畸人傳四〕堅田祐庵

祐庵は北村氏淡海堅田の浦の豪農にて茶事に熟し、物の味をすることはいにしへの苟朗易牙にも耻ず、略○中一日京師にて茶事の友にあひたるに、名にしおふ源五郎鮒食せ給へといふに、さらばいくかにと契りて歸る、其日友人の至る時、其門鮒數十をとり入るを見るに、食につきて出したる所はづかにして、腹に満す、友人あやしみて、さしもあまた取入給ふと見しに、是はいかにといへば、主笑ひて望たまふ所の源五郎鮒の眞なるものは、數十の内にて一二を得がたしといへりとなん。

〔鶴衣前篇拾遺〕百魚譜

鮒は近江に洞庭の名をくらべたる鯉に似て位階おとれり、名には紅葉をかざしたれど、鱠は春の賞讃となれり、

〔播磨風土記賀毛郡〕腹辟沼、右號「腹辟」者、花浪神之妻淡海神爲追己夫、到於此處、遂怨瞋妻、以刀辟腹、沒於此沼、故號「腹辟」沼、其沼鮒等今无五藏、

〔宜禁本草坤魚〕鮒魚、甘溫、芥菜同食水腫、熱疾不宜食、雉猪鹿同食筋甲縮、鯽後食砂糖生瘡虫、反天